

第6回 京都エリア観光渋滞対策実験協議会 議事概要

開催日：令和5年 3月28日（火）

会議形式：京都国道事務所5F会議室
（WEB会議形式併用）

1. 令和4年度 秋の観光ピークの実験による効果（資料1）

- 事務局から、秋の観光ピークにおける取組内容の紹介とその効果について報告し、検証結果を踏まえた今後の課題や方向性について意見交換を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。
 - このプロジェクトではそこまで到達するのは難しいと思うが、京都市の取組みを含めて全て足し合わせたオールインワンのアプリをユーザーが利用できるようなになれば、それがMaaSであり、その礎となり得る可能性が感じられ、本実験の方向性としては面白いと思う。
 - 道路も公共交通も混雑している状況は正に京都の交通問題を現わしており、自動車から公共交通に転換させるのは方策として有効だが、公共交通の容量が無い場合はその方策も取れないので、先々の課題としてその場合の方策を考えておかななくてはならない。
 - 今後のインバウンドを含めた観光客の増加や人口の減少等を見越して、観光客の量的コントロール、公共交通の運用改善をどこまでできるかが重要である。
 - 公共交通のサービス水準を上げて処理能力を高めるためにも、道路の混雑をどのように収めていくかがポイントになると思われる。鉄道処理能力にどれぐらい影響を及ぼしているのか等も議論していく必要がある。
 - AIを用いた渋滞予測の実験による効果をどのように捉えるかをもう少し詳細に分析し、次にすべきことを見出すことが重要である。
 - 秋の観光シーズンの東大路通は非常に混雑しているため、京都市内や京都市周辺に居住している方や地元住民は東大路通を迂回する傾向があるので、京都市民の認識も踏まえて分析を進めていく必要がある。
 - 本実験の理想形というのは、ある意味予測が外れることが目的でもあるので、精度検証は実験の前段階で行わなくてはならない。

2. 実証実験の効果検証（資料2）

- 事務局から、現地実証実験（社会実験）の効果検証について報告し、検証結果を踏まえた今後の課題や方向性について意見交換を行った。委員からの主な意見は以下の通り。
 - 来訪前にどのような情報を提供し、どのように行動変容をしてもらうか等の検討が必要であり、そのためには来訪する観光客の内訳（日帰り or 宿泊等）を把握する必要がある。
 - カーナビとWEBサイトが提供する情報がリンクしていれば経路変更する人は増えたと思われるので、情報提供媒体の組合せによって効果が変わってくるはずである。なので、一概に個々の情報提供媒体の善し悪しを結論付けることができず、オールインワンのアプリのように情報が一元化されるのが望ましい。
 - スマートフォンの車のナビ機能も普及しつつあり、車載型のカーナビも含めてナビへの働きかけというのが課題としてある。当日に情報を発信してもP&Rや公共交通への転換は可能だと思うので、今後の情報提供戦略を考えていく必要がある。
 - LED表示板は一部箇所の情報であるが、ナビは目的地までルート案内してくれるので、情報を

受け取った道路利用者の心境についても調査した上で情報提供手段を考えていく必要がある。

- 最近ではタイムズ等の民間駐車場でも P&R に誘導する動きもあるので、京都市の都心が混雑していることを色々な方法で伝えられるような将来像の原型を描いていけば良い。
- 既に混雑しているというイメージを持っている方がいるものの、混雑の程度を知らずに車に来る方々にどう情報を届けるかが大事である。

3. 実証実験を踏まえた課題と今後の方向性（資料3）

- 事務局から、実証実験を踏まえた課題と今後の方向性（案）について報告し、次年度以降の実証実験に向けた課題や方向性について意見交換を行った。委員からの主な意見は以下の通り。
 - 観光交通はハード面ではなくソフト面で手立てを考えていく必要があり、京都市民の賢い道路利用をしていることを周知し、観光客の方々にも賢い道路利用をしてもらいことを伝えれば、鉄道や P&R と相まってモーダルシフトに繋がると思われる。
 - これまでの交通手段転換のインセンティブである交通でのメリットではなく、目的地でのアクティビティや交通手段が選択肢となって利用者に選んでもらうといった目的地でのメリットがあるような形が望ましい。なので、観光業界とも連携してインセンティブの与え方や仕組みとこのを実験的に追及してもいいのではないか。
 - ICT・AI を活用したデータ利用・蓄積の高度化は、ソフト的施策をするために情報を上手く活用し、利用者に直接働きかけるといった観点と、データを上手く活用して必要なハード整備について更に検討を深めていくといった観点への両方の活用が考えられる。今後、P&R の在り方等を検討する場合においては、ETC2.0 等のデータを活用して P&R の利用実態を把握し、インセンティブの与え方や行動変容に繋がるかどうかの検討を進めて頂きたい。
 - 今回は京都市外の自家用車が渋滞要因ではないかという仮説のもとで検討を進めているが、京都市外の自家用車とともに観光客も増えていることから、歩行者の挙動が交通に影響している可能性もあるので、AI によって歩行者の動向を捉える等、渋滞要因については今後も分析を進めて頂きたい。
 - 京都の観光ピーク期というのは非常に混んでいるということを発信していくことが一番効果的だと思われるので、今後も京都市と連携して進めて頂きたい。
 - 若年層へ能動的に働きかけるような情報提供について検討が必要である。観光客の性別や年代等の属性を AI 画像解析によって認識し、その属性に応じた働きかけ検討していくことも先々の課題としてあるのではないか。